

第5回柴田町新図書館建設検討委員会 議事要旨

日時 令和6年2月16日(金)午後2時から

場所 保健センター 4階 多目的ホール

1 開会

2 開会のあいさつ(平岡委員長)

3 議事

協議事項

(1) 柴田町新図書館基本構想(案)に係るパブリックコメントについて

3 基本理念に関する意見について

副委員長:ご意見の方は、読書を個人的なもの捉えているように思う。図書館は個人がメインターゲットであるという考えから、現在は地域全体の課題に対応していけるような図書館が求められているように思う。視点を広げると同じ課題を抱えている人がいることに気付ける場所がほしいと思う。個人の問題が地域の問題であることに気付きを与えられる場所に図書館がなっていけると良いと思うので、必ずしも“地域”が不要とは思わない。

委員長 :地域色が強く出ているということはあるのかもしれない。

谷内委員:「出会う、つながる、未来を創る」はキャッチーではあり、覚えやすいと思った。

男澤委員:地域のことを自分事として考えてほしいという思いも込められていたが、そうではない方もいらっしゃる。

谷内委員:“本と出会い 人をつなぎ”とあるが、本と、人のどちらも主語に当てはまるように思う。出会うのは本だけではない、つながるのも人だけではない、と考えると「出会う、つながる、未来を創る」という提案も良いように思う。出会うのは本だけではなく、異文化や本好きの人等様々に考えられる。分けなくてもいいように思えてきた。

男澤委員:以前の議論でも優先順位はないという議論があったが、出会うやつなごりは限定されないという意見には同感である。イラストも円を個別に分けなくて良いと思う。

佐藤委員:本と出会う、人とつなぐというのは重なり合っているものではないか。真ん中で3つを満たせている場所があるかもしれない。

玉淵委員:劇場と図書館は良く比較されることが多いが、劇場も含めて社会機関であるということが当たり前になってきており、地方においては様々な課題がクローズアップされる中で、課題に向き合うべきであるという意見が強い。それを含めてみると、“本と出会う”は個人、“人をつなぐ”は第三者、その先に地域社会があると捉えていた。外してしまうのは一案であると思うが、原案も平たく言っていて分かりやすいと思っていた。意見を出してくれる人は反対意見も含めて近くにいる人であり、本当に問題なのは無関心の人。様々な要望に確実にこたえるのは難しいが、意見に寄り添うことは大切ではないか。

佐藤委員:”削除すべきである“というのは、実際にそのような意見なのか。

事務局 :原文のまま記載している。

佐藤委員:強い言葉ではあるが、意見をくれる人の言葉に対応することは必要である。

平間委員:キャッチフレーズがひとつの文章になっていることに違和感がある。文章になっていることでサードプレ

イスやちょっと立ち寄った人にとっても、図書館のゴールは地域を拓くことのように感じてしまう。“出会う つながる 創る”のように体言止めになっている方が誤解を招かないのではないか。

委員長：基本理念は文章化せずに、パブコメ意見のとおりシンプルにすることでよい。それに合わせ、基本方針5が地域にフォーカスされているが、町民個人の視点も含めた表現に変えた方がよいのではない。

谷内委員：地域の未来だけではなく、個人の未来にもつながると思う。

委員長：具体的な文言は事務局で検討して頂くこととして、方針として基本方針5に地域だけでなく個人にも目を向ける文言を追加することとする。変更後の基本理念に“～広場”をつけるかどうかについては、いかがか。

金城委員：「出会う、つながる、未来を創る」というのがシンプルで分かりやすい。“広場”は付けず、受け止め側の捉え方に任せたほうがよいのではないか。

玉淵委員：広場は流行り言葉であり、劇場でも良く使われる単語である。基本理念はあくまでイメージなので、「出会う、つながる」という抽象的な言葉が並ぶ中で、具体的な文言を入れなくても良いと思う。

委員長：基本理念は「出会う、つながる、未来を創る」とする。イラストは3つの円が重なり合うように調整し、基本方針5に町民個人の視点を加えることとする。

委員長：誇りや愛着を強要しているという意見についてはいかがか。

平間委員：図書館に対しての誇りや愛着は自然と生まれるという意見があるのであれば、無くてもよいと思う。

男澤委員：言葉に対するイメージはそれぞれ違う。親しんでもらえるように努力します、親しんでもらえるよう努めます等の表現であれば印象は違ったかもしれない。

委員長：あえて入れるかどうか。

玉淵委員：結果的にそうであればいいという願いであるため、強制、強要にはならないのではない。作り手側からすればあっていいと思う。趣旨をきちんと説明した上で残しても良いのではないか。

佐藤委員：あまりセンシティブになっても個性が無いものになってしまう。基本理念はあくまで願いや宣言のようなものであり、以前基本理念は後から変更してもいいのではという意見もあった。例えば公民館等を利用する人が必ず理念を理解しているかというところではないと思う。願いとして残しても良いのではないか。

委員長：育むでは持っていることが前提になってしまうため、修正案として地域へのほこりや愛着につながる～、等にしてはどうか。

谷内委員：まちの方針や教育基本方針に、この言葉がそのままの文言で入っている。削ぎ落してシンプルにしていくとこの図書館も同じになってしまう。まちの方針として大事にされている言葉なので残してよいのではないか。

委員長：育みがまちの方針としてあるのであれば、そのままでも良いと思う。誇り、愛着は残しながら、表現は事務局に委ねることでよい。

金城委員：誇りや愛着がまちの財産として大事であるという現れであると思うので、今後も継続し重なっていくという長い目でみると、一時的なことではなく大事にしていけると良いと思う。

委員長：「ランドマークにふさわしいコンパクトで愛着の持てる建物」を「ランドマークにふさわしい建物にします」に変更するという案はいかがか。

男澤委員：コンパクトという言葉はあえてなくても良いのではないか。

委員長：愛着はハードの建物だけでなく、その中で行われるプログラム等も含めてのことであるという理解だと思うが、コンパクトはどうするか。

平間委員：友人と基本構想を一緒に読んだ際に、予算が厳しい雰囲気がありながら、愛着をもつという言葉があるとデザイン重視なのか、機能性重視なのかが分かりづらいという意見もあった。

委員長：建築の目線でいうと予算がなくても愛着がある建物はできる。逆にいうと、見た目がコンパクトではない建物になる可能性もあることを考えると残さない方が良くかもしれない。

玉淵委員：コンパクトの意味とは、小さいということか。分かりづらいのであれば抜いたほうがいいのではないか。

委員長：“コンパクト”は取り、“愛着”は残すということでいかがか。

→一同、異論なし。

新図書館の規模について

委員長：P23 の変更案についていかがか。

田中委員：具体的な数字が8万冊と見た時は少ないと感じ、新しい図書館で8万冊は厳しい目を向けられるのではないかと思っていた。具体的な数字は出さないことが町民にとっては分かりづらくなっているように思う。人件費や価格高騰は誰もが実感しているが、町民にとっては実際増えるのか、増やす気があるのかということが気になるのだと思う。“将来的に17万冊に向けて”という書き方でもいいのか。宮城県図書館は150万冊入ることになっており、現在120万冊であるが、書架がなくてぎりぎりの状態である。120万冊まで増えたのも、何十年もの積み上げである。8万冊を目標にしてしまうとそこから動かない。どのくらいの規模の図書館を目指しますという書き方にしたほうが良いのではないか。

委員長：このくらいの密度の面積であれば何万冊という書き方ということか。

事務局：延べ床面積が決まれば、蔵書も決まってくるが現状ははっきりしていない。基本構想には延べ床面積は明記せず、基本計画の段階で延べ床面積や蔵書が決まってくる予定である。17万冊目指すのであれば現在予定している1,500平米では厳しいため、はっきり明記することが難しい。

委員長：全体の規模、面積が分からない中で8万冊という数字だけがひとり歩きしてしまっているのではないか。

事務局：基本計画のプロポーザルでは基本構想に沿って提案して頂くという兼ね合いがあり、面積、蔵書が何もなくて設計できないため、一旦8万冊と記載していた。しかし、8万冊では少ないという意見が現状多く出ているため、基本構想の段階ではまちの方針を記載することに留めた方が良く考えている。

委員長：基本計画のプロポーザルは既に始まっているが、設計者側とは今後変更があることも前提とされているのか。

事務局：基本構想(案)の段階であるため、今後変更があり得ることを伝えている。

委員長：先ほどご意見にあったように、参考値として平米当たりの冊数を載せるかどうか。

事務局：まちとしては冊数を明記するのではなく、17万冊というも貸出冊数の多い図書館の平均であるため、そこを目指しながらも今後基本計画で検討していくという考えである。プロポーザルで決まった業者も含めたWSで必要な機能に関する議論がすぐに始まり、必要なサービスや機能、面積等についても、令和6年度前半には決めなければいけないスケジュールであるため、基本計画の中で詳細を決定していきたい。

委員長：ミニマムで8万冊、将来的には17万冊ということにはならないか。

事務局：今後の基本計画策定のなかで検討していくことになるが、減ることはおそくない。現状かなりゆったりとしたスペースを確保した場合の8万冊となっているため、書架の置き方次第では増えていくことにはなると思う。

田中委員：8万冊を目標という、8万冊が上限のように捉えられてしまう。

事務局：8万冊がゴールではないような表現を検討したい。

田中委員:新しい図書館を建てます、開館時には約8万冊は置けるようにしますといった表現ではどうか。

事務局 :ご意見を踏まえて表現は検討させて頂く。8万冊以上を目指すという表現に変えたいと思う。

委員長 :赤字は残して書き足すということか。

事務局 :まちの方向としては赤字の記載内容から変わらないため、町民の方から具体的な質問が出た場合、延べ床面積が具体的に決まっていない中で確実にいえることとして8万冊以上を目指していることを回答させていただく。

委員長 :延べ床面積と同じく、蔵書についても具体的な数字は載せず、個別の問合せに対応していくこととする。

その他

委員長 :回答の公開予定はいつか。

事務局 :3月議会への回答と整合性を図っているところのため、日付は具体的には決まっていない。
内容を精査して(案)を取り、まちの推進本部会議にも図った後公開する予定としている。

報告事項

(1)賑わい交流プレイスワークショップの取組について

木村委員:延べ床面積の話題が出ていたが、1,500平米に郷土資料館の面積も含まれているのか。

事務局 :図書館単体の面積であり、郷土資料館は含まれない。郷土資料館は別の計画としてリノベーションを予定している。

委員長 :郷土資料館のリノベーションは来年度からどのようなスケジュールを予定しているのか。

事務局 :来年度はお試し事業のようなもので社会実験を行った後、実施設計に入ることを予定している。

委員長 :図書館の基本計画策定のスケジュールとの兼ね合いが気になる。町全体の公共施設とのバランスの中で検討することが大切だと思う。郷土資料館が来年度実施設計に入るとなると、図書館より先行することになるのか。

事務局 :図書館は来年度前半の基本計画策定の中で、規模等が決まってくることになるが、郷土資料館はその間に社会実験等を行い、リノベーションと図書館の計画は調整しながら進めていきたい。図書館は現在単体として検討しているが、アンケートでも複合的な機能を求める声が多いため、図書館で入れることができない機能を郷土資料館に反映していきたいと考えている。町の上位計画との整合については、町の他の機能を移転するという可能性もあるため、都市再生整備計画の推進本部の中でも検討しながら進めていきたい。

男澤委員:町民に対してどのように公開するのか。見せ方を間違えるとこのような図書館ができると誤解を招く。
また、細かい点ではあるがふるさと伝承館の二階は北向きであり、前は建物でふさがれている為、アイディアスケッチのような使い方は難しいと思う。

佐藤委員:地域住民主体で行いたいソフト事業等のアイディアは現在どの位でているのか。自分たちが使いたいアイディアを出している段階であると思うが、実際に動く話がでているのか知りたい。

事務局 :キッチンカーイベントや、中庭を使ってキャンプ等の意見が出ており、まずはどうしたい、どうなってほしいという意見を出している段階で、実際の活動の話はまだあまり出ていない。

佐藤委員:作った後だれも使わないのでは意味なく、そこが一番大事だと思う。イベントを開催するときに思い付きから始まることもあり、小さなアイディアでも書き留めていくと良いと思う。

事務局 :まさに住民のやりたい、という気持ちを大事にしている。プレイスデザインという言葉の通り、やりたいこ

とからデザインすることを重視しているワークショップである。情報の公開は HP で行っているが、道路のアイディアスケッチ等は意見を素直に絵にしたものであり、完成形とは違うものである。先ほどのご指摘の通りふるさと伝承館は北向きのため、現状として照らし合わせながら今後検討を進めていきたい。

委員長 : ご指摘にあったようにプレーヤーが大事である。実際にキッチンカーをやっている人等がワークショップに参加しているのか。

事務局 : 飲食店関係者の方がいる。

委員長 : 委員会として検討したパブコメや計画の最終確認は行うのか。

事務局 : 頂いたご意見を踏まえ、事務局の方で推進本部会議に提出させていただく。

副委員長: 柴田町の強みを考えた時に、すべての学校の図書室に図書館司書がいるのは稀である。強みを活かし地域住民にも開放してもらえないか。柴田町小学校では既にやっている。柴田町がいかに図書館に強い思い入れがあることをもっと積極的に発信できればよいのではないか。

以上